

2010年3月期 決算説明会

大平洋金属株式会社

2010年5月21日

ホームページURL

: http://www.pacific-metals.co.jp

お問い合わせ先

:総務部(IR担当)

TEL

:03-3201-6681

目 次

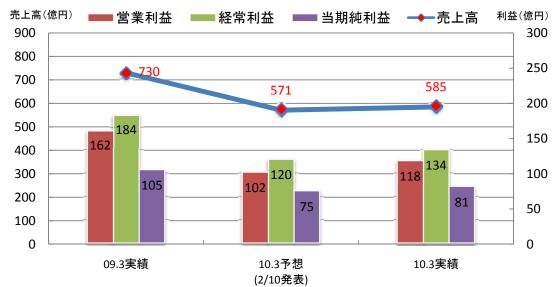
I 10.3期 決算実績	
◆10.3期 決 算実績	
1. 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1. 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3. 国別販売実績[09.3実績対10.3実績]	
4. 連結経常損益の分析[09.3実績対10.3実績]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	e
い、大工作品は上げたが、一直のクラングでは、大工作品は、工作品は、工作品は、工作品は、工作品は、工作品は、工作品は、工作品は、	•
Ⅱ今後のニッケル需給の見通しについて	
◆今後のニッケル需給の見通しについて	
▼ 7 後のニッケル価格の光過のについて 1 LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数景堆移	ç
1.LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2.世介のスナノレス工作と一ツナル市和	
3.地域別ステンレス・ニッケル需給見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4.ニッケル生産新規・既存プロジェクトの状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	L
4.二ツケル生産新規・既仔ノロンェクトの状況・・・・・・・・・・・・・・ 1	L1
山中期経営計画策定	
◆長期成長のシナリオ・・・・・・ 1	L3
◆中期経営計画策定	
1.過去中期経営計画からの変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	L 4
▼中級性百計画象と1.過去中期経営計画からの変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
3.地域別フェロニッケル売上・販売数量・・・・・・・・・・・・・・ 1	16
4.主な資金使途・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
5.中期経営計画における投資内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8
6 ニッケル鉱石安定調達策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
6.ニッケル鉱石安定調達策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・) (
7.7业式表域、0747/107	٠.
Ⅳ当社株式の大量取得行為に関する対応策の更新について	
◆当社株式の大量取得行為に関する対応策の更新について············ 2	4





◆10.3期 決算実績

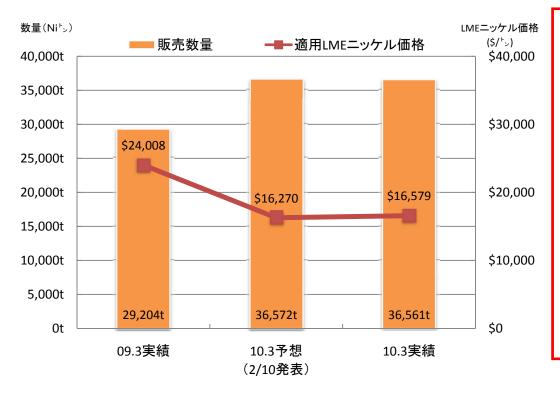
1.概要



- ◇ ニッケル事業 中国・アジアの経済が高度成長を回 復、継続し、ニッケル需要は順調に推 移した。
- ◇ その他の事業 電力卸事業の売上高及び営業利益 が順調。

金額単位;百万円		09.3	実績	10.3予想(2/10発表)		10.3実績			対前期比	対2/10発表
		金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	構成比率	(%)	予想比(%)
売上高	_	72,976	-	57,148	-	58,490	ı	100.0	△19.9	2.4
	ニッケル事業	71,154	-	_	-	56,644	-	96.8	Δ20.4	_
	その他の事業	1,998	_	_	_	2,039	_	3.5	2.1	_
	連結に伴う調整	△176	_	_	_	Δ193	_	Δ0.3	_	_
営業利益		16,169	22.2	10,172	18.7	11,774	20.1	100.0	△27.2	9.9
	ニッケル事業	16,262	22.3	_	-	11,688	20.0	99.3	Δ28.1	_
	その他の事業	Δ108	Δ0.1	_	_	66	0.1	0.6	_	_
	連結に伴う調整	15	0.0	_	_	20	0.0	0.1	33.3	_
経常利益		18,388	25.2	11,971	21.0	13,441	23.0	-	△26.9	12.3
当期純利益		10,532	14.4	7,521	13.2	8,140	13.9	-	△22.7	8.2
(設備投資額	預)	11,321	_	_	_	8,866	_	_	_	
(減価償却費	費)	3,238	_	_	_	3,564	_	_	_	_

◆10.3期 決算実績 2.ニッケル事業



TOPICS

① 販売数量

ステンレス鋼業界の在庫調整が進展。 その影響によりニッケル業界にも回復が見られ た。

国内向けは前期比大幅減少、輸出向けは増加 し、全体では前年同期比25%増加の36,561^トン。

② 適用LMEニッケル価格

LMEニッケル相場のニッケル在庫が10万トンを 超える状況が続いた。

当社適用LMEニッケル価格は、前年同期比 31.0%減となり、トン当たり16,579ドル、ポンド当 たり7.52ドル。

③ 適用為替

為替は92.77¥/\$と前期比9.4%の円高となり、販売価格を押し下げ。

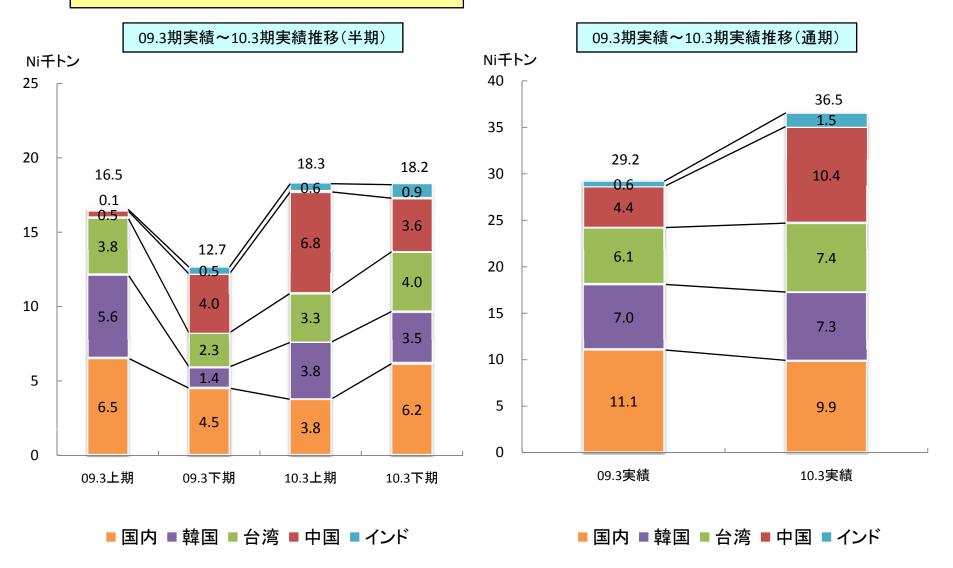
	09.3実績	10.3予想 (2/10発表)	10.3実績	対前期比(%)	対2/10発表 予想比(%)
販売数量(NI ^ト シ)	29,204	36,572	36,561	25.2	Δ0.0
適用LME(\$/ト _ン)	24,008	16,270	16,579	Δ31.0	1.9
【適用LME(\$/lb)】	【10.89】	【7.38】	【7.52】	Δ31.0	1.9
適用為替(¥/\$)	102.44	92.56	92.77	△9.4	0.2



◆10.3期 決算実績

3.国別販売実績[09.3実績対10.3実績]

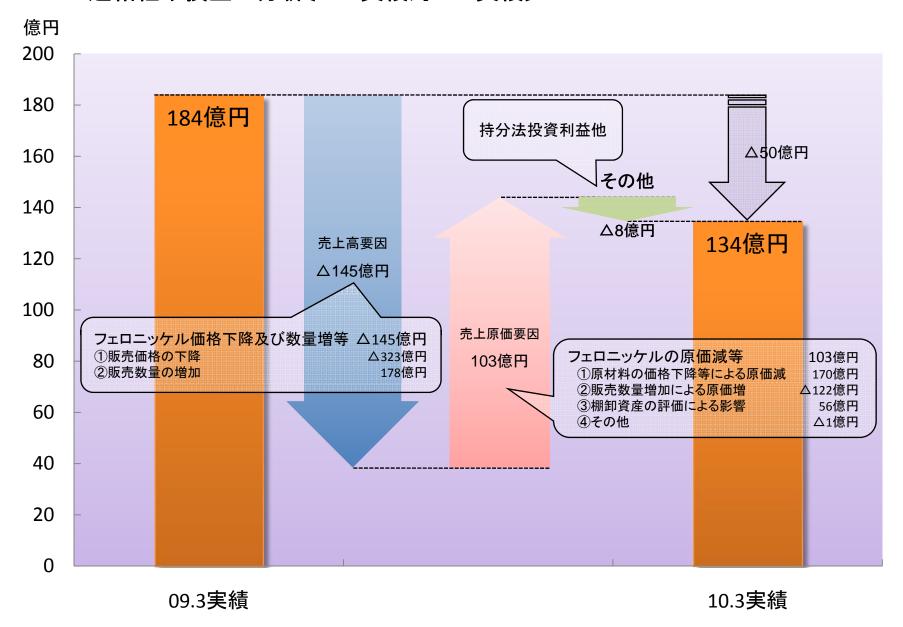
当社のフェロニッケル販売数量(国別)実績





◆10.3期 決算実績

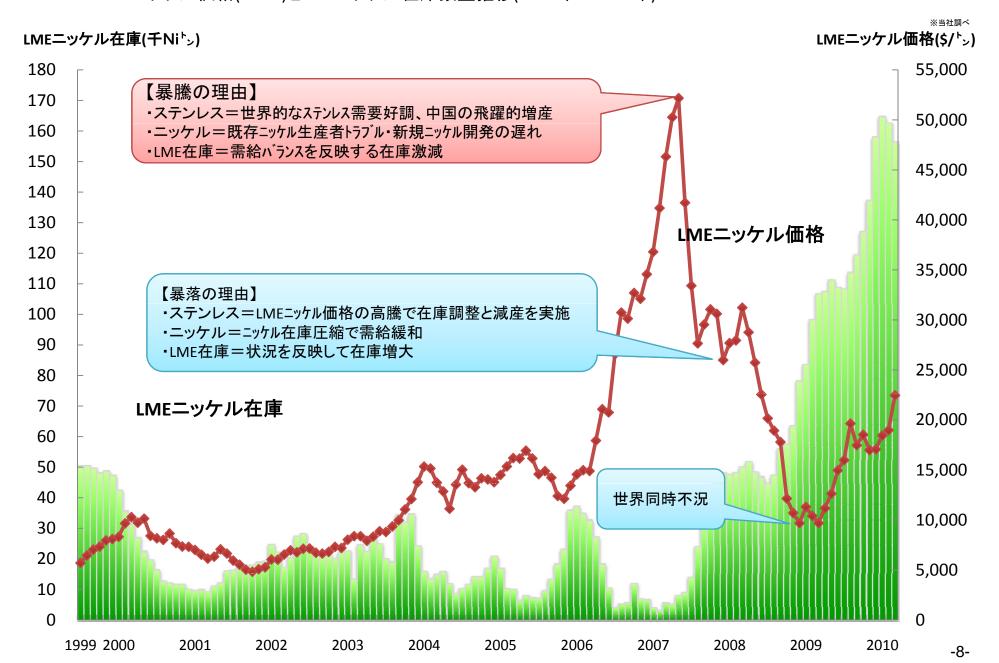
4.連結経常損益の分析[09.3実績対10.3実績]



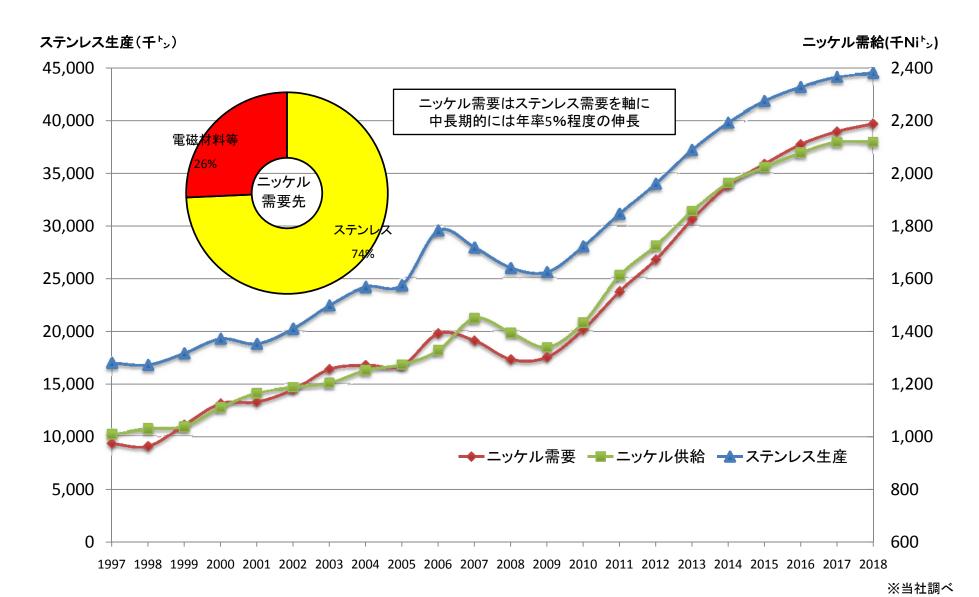


加大平洋金属株式会社

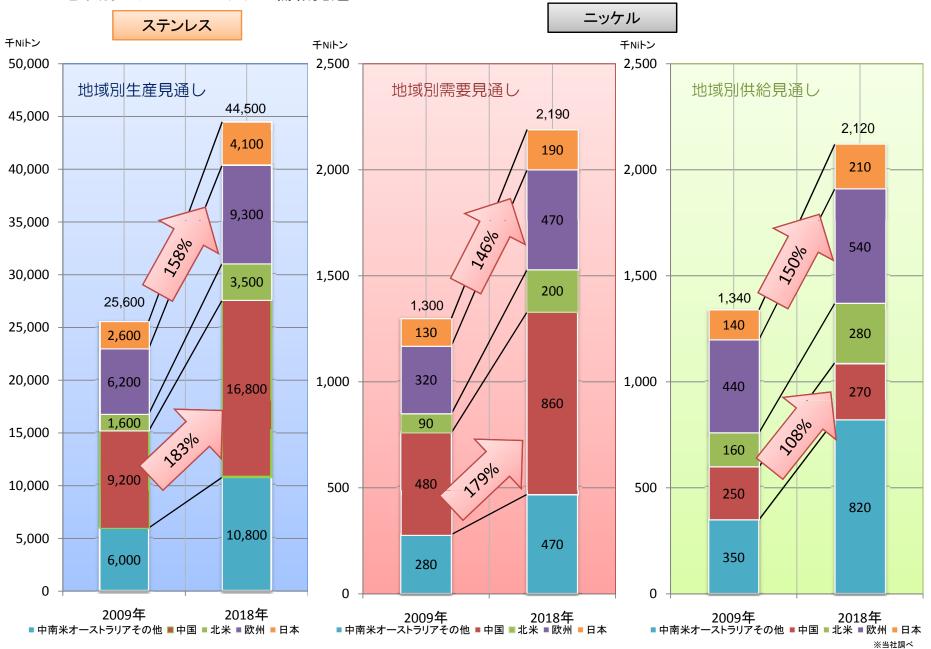
1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移(1999年~2010年)



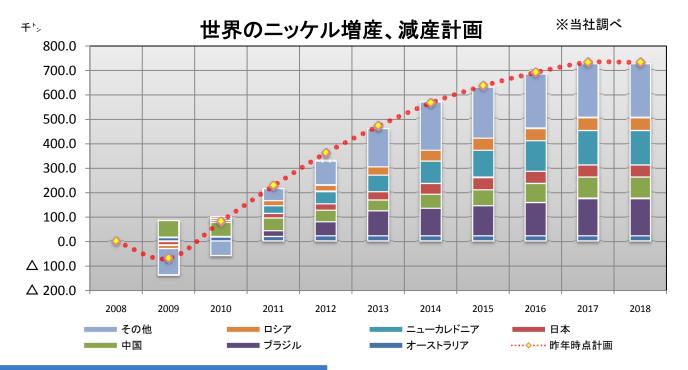
2. 世界のステンレス生産とニッケル需給



3.地域別ステンレス・ニッケル需給見通し



4.ニッケル生産新規・既存プロジェクトの状況



Commentary

・2008年Ni総生産量 (1,392千号)をゼロと し、以降の増産、減 産計画を示した。

<主要なフェロニッケル生産者の増産、減産状況>

国名	生産者名	生産能力	備考
DOMINICA	XSTRATA/FALCONDO	29,000 ^۲ ک	2009年より無期限操業停止。
AUSTRALIA	BHP-Billiton Ravensthorpe	45,000 ^ト >	First Quantum Minerals社に売却。現在操業停止中。
INDONESIA	PT ANTAM	26,000 ^ト >	2009年上期のLME市況悪化による減産、12,550~」に。2012年には26,000~」生産の予定。
NEW CALEDONIA	XSTRATA/KONIAMBO	60,000 ^۲ ۷	新規。2014年稼働開始、2018年60,0005。達成予定だったが、2年前倒しの話も。
NEW CALEDONIA	VALE INCO/GORO	60,000 ^۲ ۷	新規。オフィシャルコメントは発表されていないが、事故により計画が遅延している模様。
BRAZIL	ANGLO AMERICAN/BRRO ALTO	36,000 ^ト >	新規。2011年1Qから操業開始予定。





◆長期成長のシナリオ

加大平洋金属株式会社

マクロ 環境

世界的不況の底打ち感景気回復に歩調を合わせたステンレスマーケットの需要回復

中長期的にみればニッケル需要は回復・伸長

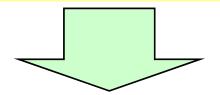
当社の強み

鉱山との強力なコネクション 安定した鉱石調達 製錬技術と低コスト生産体制

伸長するアジアの好立地 有利な販売環境

参入障壁の高い業界/競合他社よりも有利なポジション





東アジアにおけるフェロニッケルNo.1企業堅持

成長戦略

安定した鉱石調達への取組み (新規鉱山開発の推進) (湿式製錬技術研究開発)

生産基盤整備増強のための設備投資

安定した販売体制と販路拡大

中期経営計画策定

1.過去中期経営計画からの変遷



見直LPAMCO-22

2008年度~2010年度

- 操業の安定化と能力の弾力化
- 海外販路拡大
- 湿式製錬プラント着手

• ニッケル資源調達の長期安定化

PAMCO-22

2007年度~2010年度

- 大規模設備投資による 生産能力の増強・合理化・環境対策
- 東アジア地域における取引先との連携強化
- コンプライアンス、内部統制の充実

• 設備投資 電気炉1ラインの更新、合理化や 安全、環境対策

- 鉱石対策 鉱山開発等の対策の実施
- 湿式製錬技術の確立

2010年度~2013年度

- 販路拡大による 販売数量4万5分台
- 労働安全衛生対策

PAMCO-20

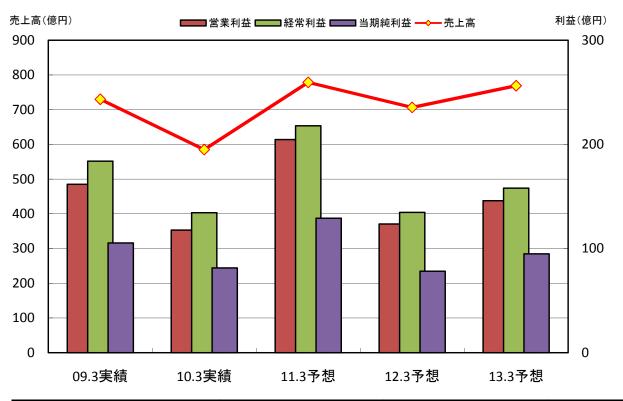
2006年度~2008年度

- 電気炉3炉ライン更新に着手
- 好立地をバックに、 仲国を視野に入れた増販を図る
- 復配、財務体制の強化を図る

◆ 中期経営計画策定

2. PAMCO-24 概要

~生産体制強化と増販により成長基盤を固め、積極的戦略に備える~



TOPICS

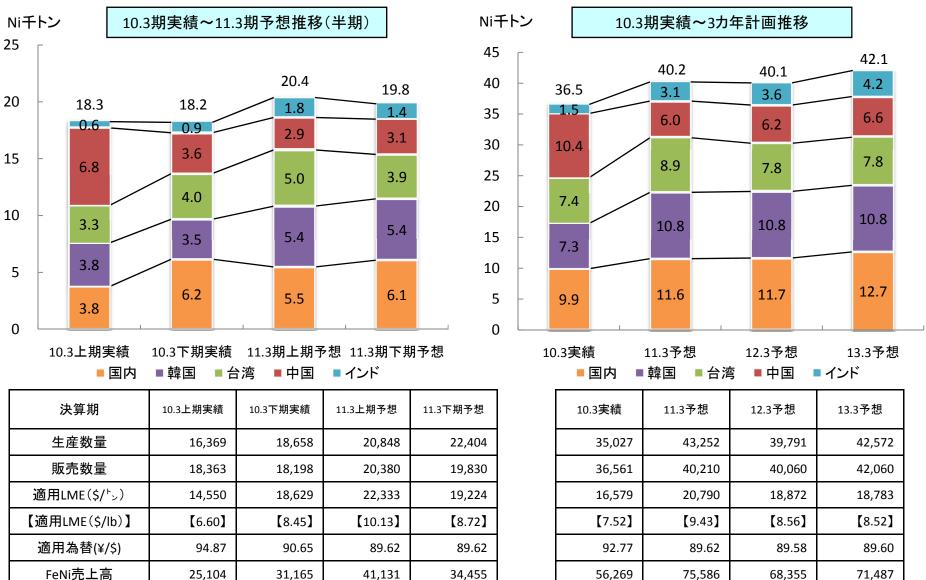
- 11.3期以降適用LMEニッケル価格予想は、現状の市況実勢レベルを勘案し、20,790\$/トッ(9.43\$/lb)~18,783\$/トッ(8.52\$/lb)へ。
- ② 国内大株主ユーザーへの対応を最優 先し、韓国、台湾、中国の既存需要家 を柱としてインドへも拡販を図る。
- ③ 生産、販売基盤整備増強で、東アジアトップのフェロニッケルメーカーとしての地位を保持。

金額単位;百万円	09.3実績	利益率(%)	10.3実績	利益率(%)	11.3予想	利益率(%)	12.3予想	利益率(%)	13.3予想	利益率 (%)
売上高	72,976	-	58,490	-	77,846	-	70,643	_	76,877	_
営業利益	16,169	22.2	11,774	20.1	20,460	26.3	12,357	17.5	14,589	19.0
経常利益	18,388	25.2	13,441	23.0	21,788	28.0	13,468	19.1	15,801	20.6
当期純利益	10,532	14.4	8,141	13.9	12,909	16.6	7,820	11.1	9,493	12.3
(設備投資額)	11,321	_	8,866	_	11,492	_	15,259	_	13,922	_
(減価償却費)	3,238	_	3,564	_	6,002	_	7,352	_	7,941	_

◆中期経営計画策定

3. 地域別フェロニッケル売上・販売数量

当社の地域別フェロニッケル販売数量比較



◆ 中期経営計画策定

4. 主な資金使途



~主に配当と設備投資に配分~

TOPICS

- ①連結配当性向30%を目処
- ②3ヵ年中の設備投資額は40,672百万円

株主還元方針 (11.3期~13.3期)

●連結配当性向30%を目処

11.3期配当予想 20円 (中間期末10円、期末10円: 連結配当性向30.3%)

ご参考)10.3期配当実績 13円 (中間期末4円、期末9円: 連結配当性向31.3%)

自己株式の取得も状況に応じて検討

(単位:百万円)

3ヵ年の資金使途



配当金 8,984



設備投資 40,672

内部留保金は

- ●資源確保
- ●設備投資
- ●新技術の開発
- 自己株式の取得等に有効活用の予定

変化の激しい経営環境に対応



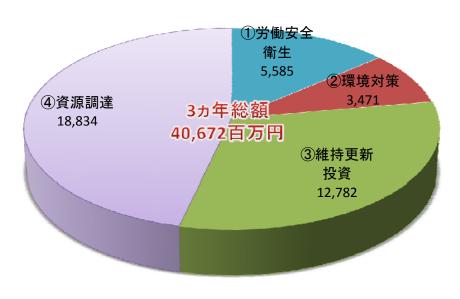
◆中期経営計画策定

5. 中期経営計画における投資内容

~3ヵ年総額約406億円の投資を見込む~

①労働安全衛生の充実にかかる投資	約56億円
②環境対策投資(温暖化、エネルギー転換他)	約35億円
③定期的な維持更新等及び合理化投資	約127億円
(うち6号炉改修工事として	約69億円)
④資源安定調達·Ni資源有効利用に関する投資	約188億円

3ヵ年投資内訳





◆中期経営計画策定

6. ニッケル鉱石安定調達策

ニッケル鉱石安定調達策188億円(PAMCO-24)

①長期購入契約締結(随時更新)

購入先	08年 3月期	09年 3月期	10年 3月期	11年 3月期	12年 3月期	13年 3月期	14年 3月期	15年 3月期	16年 3月期
<フィリピン> リオ・チバ・ニッケル社	08年2	1月~12年12月 1	月(5年間)		I		$\sum\sum$		$\sum \sum \sum$
<フィリピン> タガニート社	01年2	1月~10年12月	月(10年間)		$\sum\sum$	\sum			
<インドネシア> アンタム社	07年6	6月~14年5月	(7年間)						\sum
<ニューカレドニア> モンタニア社	06年4	4月~16年3月	(10年間)						

②鉱山開発及び操業に関する技術協力

<フィリピン>	リオ・チバ・ニッケル社とは、既に探鉱・開発対象 となる新たな鉱区を決定済み。 リオ・チバ・ニッケル社およびタガニート社等と共 同で進行中。
<インドネシア>	アンタム社が鉱山開発を行い、開発後の安定し た鉱山操業のための技術協力を実施。

③鉱山会社への出資

<フィリピン>	リオ・チバ・ニッケル社:36% タガニート社:33.5%
<インドネシア>	アンタム社:若干の出資(インドネシア政府65%)

<u><フィリピン・ジャカルタ事務所></u>



◆中期経営計画策定

7. 湿式製錬への取組み

湿式製錬とは、化学処理によるニッケルの濃縮・抽出方法。 現地山元で湿式製錬し、品位を上げた中間産品を八戸で乾式製錬することにより低品位鉱石を活用可能。

①位置付け ②酸化ニッケル鉱石別精錬法 11111 乾式製錬では使用できない 低品位Ni鉱石 低品位鉱石を利用。 表土 N i 湿 式 製 錬 Ni 1.0~2.5% 主成分はNi(OH)2でありス リモナイト Fe 20~50% ラグ分をほとんど含まない NiHP(水酸化物)を原料の Ni鉱石 NiHP 湿式製錬 一部として使用することで 低品位Ni鉱石 使用電力、スラグ、廃熱量 を減らすことが可能。 Ni 1.2~2.0% FeNi乾式製錬 LGS₀ Fe 20% Ni 2.0~2.5% サプロライト これまで使えなかった低品 Fe 20% 乾式製錬 F e N i Ni鉱石 位原料の使用が可能とな り、さらにFeNiの増産が可 岩盤 ③パイロットプラント操業進捗状況

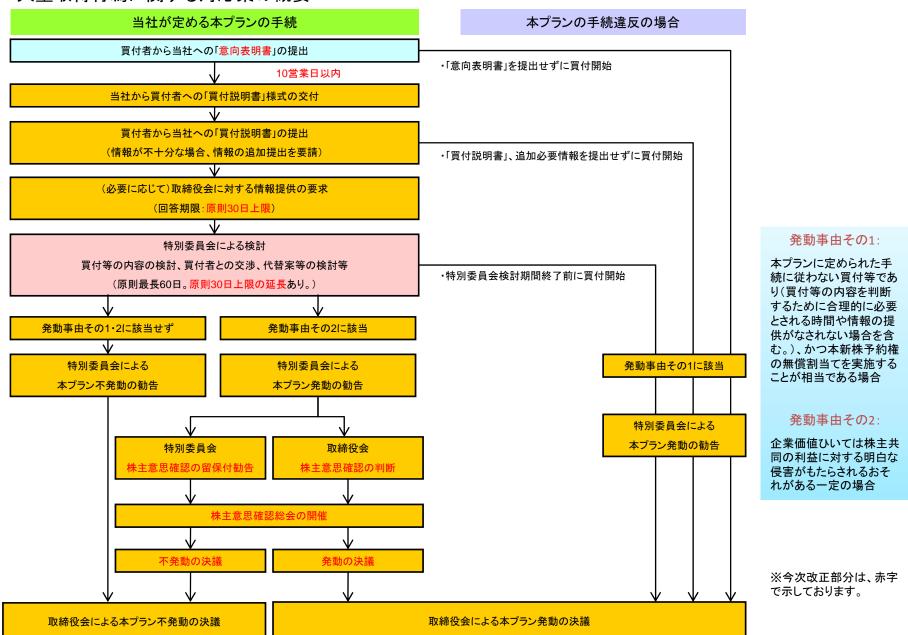
~2010年夏~ 鉱石投入による試験操業開始

IV 当社株式の大量取得行為に 関する対応策の更新について

◆当社株式の大量取得行為に関する対応策の更新について

★平洋金属株式会社

大量取得行為に関する対応策の概要





本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、 今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいます様お願いいたします。 本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。